

九! 月初のロンドンは涼しかった。夜になると寒いくらいであった。ケンブリッジから戻ってきたトタンにカゼをひいてしまった。第十回バグウォッシュ会議の会場であり、また宿舎でもあるラッセル・ホテルの二室に身を横たえながら何とかして一日も早急な回復を望むばかりではなれないと思った。少なくとも会議の第一日だけは出席しなければならぬからである。

ル以外の十人の著名者のうち、アインシュタインとシュレーディンジャーは「第三回の会議で自分が度々している」とも、つぎのような言葉をこぼした。この世の人ではなかった。ホルンとマラーとは病室にいらなかった。

開! 会式の壇上に並んだのは私と五人だけであった。地元イギリスの科学者ヘール・シムズがまず長い演説をした。彼ははじめに「政治には、また科学的理論がないが、そういうものを作るの

のであった。旧知の物理学者ハイトラウが、もうその意味での科学とモラルの問題にふれたいと強く思った。

学における国際協力」「飛躍しつつある国の援助における科学」「科学と教育」などがある。これらの問題はどれも重要には違いないが、国連の諸機関で取り扱われているものも多い。バグウォッシュ会議として取りあげられる以上、そこにおのずから選ばれるべきではない。そういう態度は私は失望を禁じえなかった。

た。幸いケンブリッジの会を避けて、日本から小川若雄君もきてくれ、ロンドン大学にいての準備も参加した。小川君がある程度、私の代弁もしてくれられた。

「私にはいさや、原則に関する一般的な説明では十分でない段階にきている。行動が必要である。…完全な軍備撤廃と、恒久平和とは現実的であり緊急であるという私たちの確信を、ここに記さねばならない。この事業はまさしく人類の進歩のための、長期にわたる苦闘の一部とみなさるべきであり、そこでは科学者が責任ある役割をこなしている。世界のいたるところの科学者に、私たちが二階になつてこの使命を果たすよう呼びかける」

現代科学者の任務

バグウォッシュ会議に出席して

湯川 秀 樹



会場には三十五ヶ国から二百人あまりが集まった。九十才を迎えたハートランド・ラッセルが思ったより元気をうな足どりで現われた。かこの鋭い感じとは打って変わった柔和な顔つきである。英知と慈恵を兼ね備えた高僧に似て居る。ラッセル・アインシュタイン以来、わずか七年の間にバグウォッシュ運動がこんなに大きく発展したことは、彼にとつて大きな喜びに違いない。一九五七年の第一回の会議の出席者は十二人にすぎなかった。この

は「第二回の会議で自分が度々している」とも、つぎのような言葉をこぼした。この世の人ではなかった。ホルンとマラーとは病室にいらなかった。

開! 会式の壇上に並んだのは私と五人だけであった。地元イギリスの科学者ヘール・シムズがまず長い演説をした。彼ははじめに「政治には、また科学的理論がないが、そういうものを作るの

のであった。旧知の物理学者ハイトラウが、もうその意味での科学とモラルの問題にふれたいと強く思った。

学における国際協力」「飛躍しつつある国の援助における科学」「科学と教育」などがある。これらの問題はどれも重要には違いないが、国連の諸機関で取り扱われているものも多い。バグウォッシュ会議として取りあげられる以上、そこにおのずから選ばれるべきではない。そういう態度は私は失望を禁じえなかった。

た。幸いケンブリッジの会を避けて、日本から小川若雄君もきてくれ、ロンドン大学にいての準備も参加した。小川君がある程度、私の代弁もしてくれられた。

「私にはいさや、原則に関する一般的な説明では十分でない段階にきている。行動が必要である。…完全な軍備撤廃と、恒久平和とは現実的であり緊急であるという私たちの確信を、ここに記さねばならない。この事業はまさしく人類の進歩のための、長期にわたる苦闘の一部とみなさるべきであり、そこでは科学者が責任ある役割をこなしている。世界のいたるところの科学者に、私たちが二階になつてこの使命を果たすよう呼びかける」

37.9.19
毎日新聞

c081-013-014

